

指導者のバックグラウンドに関するアンケート調査報告

指導者養成委員会

はじめに

日本陸上競技連盟(以下,本連盟)では,2017年に,日本の陸上競技界が発展していくためのミッションを定義した。それは,「トップアスリートの活躍によって国民に夢と希望を与える」こと,つまり国際競技力の向上,および「すべての人がすべてのライフステージで陸上競技を楽しめる環境を実現すること,つまりウェルネス陸上の実現である。そして,その達成に向けて,一人でも多くの人々が陸上競技を楽しみ,そして関わり続けるために,競技者育成指針が策定された。さらに,この指針に則って適切な陸上競技の活動を提供する指導者の育成を目指し,2020年には指導者養成指針が策定されている。そして,その中では,全ての指導者のコーチ資格の取得が目指されている。

指導者のコーチ資格保有率に関する大規模調査が実施されたのは2014年であった。現日本スポーツ協会(当時の日本体育協会)によって,学校部活動指導者の公認スポーツ指導者資格認知度や保有率,指導者のスポーツ経験,指導経験,指導スキルに関する調査が行われた。そして,この調査結果からは,保健体育以外の教科を担当する教員であり,過去にその競技の経験がない指導者の割合が,中学校および高等学校ともに最も高く,それぞれ45.9%と40.9%であったことが明らかにされた。また,公認資格の保有率は,中学校では8.3%,高等学校では17.4%であったことも示された。この調査は,2021年にも実施され,保健体育以外の教科を担当する教員であり,過去にその競技の経験がない指導者の割合は中学校で26.9%,高等学校で25.3%と減少している。これに伴って,保健体育以外の教科を担当する教員であり,過去にその競技の経験を有する指導者の割合が,2014年と比較して大幅に増加した。このような調査結果は,今後の指導者養成の在り方を検討するうえで有益な情報を提供してくれるものと言えよう。さらに,顧問教諭の働き方改革,子供

たちのゆとりを持った活動の推進に伴う運動部活動の地域移行が目指されるなか,現状を把握することは次の策を講じるうえで大切である。

しかし,日本体育協会の調査は,さまざまなスポーツ種目の指導者を対象としており,陸上競技の現状は明らかにされていない。陸上競技は,リレー競技や駅伝競走を除いて個人の種目が多いことや,男女混合での活動が多いなどの特徴があることを考慮すると,指導者の属性も他の種目とは異なる可能性も考えられる。そこで,本連盟では,2020年度に陸上競技の指導者を対象として,日本体育協会の実施した調査と同様の調査を実施した。本稿では,その結果を報告する。

方法

本連盟に登録されている団体(中学校・高等学校)の連絡代表者宛に調査依頼をした。なお,回答数を増やす為に,その団体内でアンケートを受け取っていない指導者がいれば,その方への回答依頼も連絡代表者に依頼した。実施方法は,Google フォームによるオンライン調査であった。実施期間は2020年8月26日から9月13日で,アンケートの依頼を中学校の連絡代表者6,387名,高等学校の連絡代表者4,065名にメールで送付した。そのうち,明らかに同じ内容の回答は一つの回答のみを残して削除するなどして,有効回答数は,中学校の指導者で2,068名,高等学校の指導者で1,761名であった。対象者の基本属性を表1に示した。中学校では,男性指導者が1,671名で全体の80.8%を占め,女性指導者が395名で19.1%であり,MTF(Male to femaleの略称)が1名であった。また,高等学校では,男性指導者が1,513名で全体の85.9%を占め,女性指導者が248名で14.1%を占めた。年齢は,中学校では,20歳代が494名と23.9%を占め,30歳代が709名で34.3%,40歳代が418名で20.2%,50歳代が381名で18.4%,60歳代が64名で3.1%あった。高等

表1 対象者の基本属性

| | 指導者の性別 | | | 年齢 | | | | |
|--------|---------------|-------------|------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| | 男性 | 女性 | MTF | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代以上 |
| 今回調査 | | | | | | | | |
| 中学校 | 80.8%(1,671名) | 19.1%(395名) | 記載なし | 23.9%(494名) | 34.3%(709名) | 20.2%(418名) | 18.4%(381名) | 3.1%(64名) |
| 高等学校 | 85.9%(1,513名) | 14.1%(248名) | 記載なし | 16.5%(291名) | 29.5%(519名) | 27.5%(484名) | 23.1%(407名) | 3.4%(60名) |
| JSPO調査 | | | | | | | | |
| 中学校 | 73.5%(1,670名) | 26.5%(602名) | 記載なし | 28.4%(645名) | 33.3%(757名) | 19.5%(443名) | 16.0%(363名) | 2.8%(64名) |
| 高等学校 | 82.0%(2,216名) | 18.0%(486名) | 記載なし | 18.8%(508名) | 17.2%(465名) | 15.7%(424名) | 21.9%(592名) | 6.4%(173名) |

学校では、20歳代が291名と16.5%を占め、30歳代が519名で29.5%、40歳代が484名で27.5%、50歳代が407名で23.1%、60歳代が60名で3.4%であった。指導経験年数は、中学校で10年未満が63.1%、10年以上20年未満が20.6%、20年以上30年未満が9.6%、30年以上40年未満が6.4%であった。高等学校では10年未満が46.5%、10年以上20年未満が25.7%、20年以上30年未満が16.8%、30年以上40年未満が11.0%であった。

なお、質問項目は別添のとおりであるが、専門科目（保健体育科、もしくはそれ以外）、学生（中学生、高校生、大学生）の時に所属していた課外活動、指導対象生徒数、一週間当たりの指導日数および指導時間、指導者資格の有無などに関する質問で構成されていた。

結果および考察

表2から表11に結果を示した。なお、2021年に報告された日本スポーツ協会の報告に本調査と同じ質問項目があった場合には、その値も示した。また、数値のみでなく図を資料として示した。

本調査における対象者の性別をみると、中学校および高等学校ともに男性の比率が80%を超えること、また、男性の比率は高等学校において高いことがみてとれる。2016年度（平成28年度）の文科省の調査によると、中学校における女性教員の割合は約41%で、高等学校における女性教員の割合は30%であったことが報告されている。このことから、中学校および高等学校における陸上競技の指導者では、女性の進出や活躍が不十分であると言える。男女間の公正な待遇が進み始めているとはいえ、学校における終業後の活動として陸上競技の指導を行うことを考えると、既婚者で子育て世代の教員にとって、家庭と陸上競技の指導のバランスを取ることは非常に困難で、陸上競技の指導をしたくても諦めざるを得ない状況があるものと推察する。この点について、さらなる調査が必要であろう。

年齢をみると、中学校および高等学校ともに30歳代が最も多く、60歳代は3%程度であった。公立学校の場合、60歳に達すると定年退職となることから、60歳代の指導者の占める割合が著しく少なくなることは当然の結果であろう。また、中学校では、20歳代および30歳代の割合が合計で約60%を占めており、高等学校と比較して多かったのに対して、高等学校では、20歳代および30歳代の割合が50%を下回り、それに対して40歳代および50歳代の割合が合計で約50%と、中学校と比較して多かった。一方で、全体としては、30歳代の指導者の人数をピークとした正規分布を示している点で、中学校および高等学校共に同様の傾向であった。2019年度（令和元年度）の文科省の調査によれば、公立中学校では、30歳代前半および50歳代後半をピークとした二峰性の年齢分布であったことが示されている。また、高等学校においても、30歳代前半のピークは認められないものの、50歳代後半をピークとして、丘型の傾向にあったことが示されている。このように、我が国における教員数の分布と、本調査によって示された指導者の分布とは、それぞれの傾向が合致しているとは言い難い。この差の理由を説明することは困難であるが、年齢に伴って指導者の割合が減少することは、指導者である教員が、年齢を経て、学校における責任のある役職に就く場合も多く、校務に時間を費やすことが求められているものと推察される。

このように、男女比と年齢比を基本属性としても、我が国の全教員を対象とした調査結果と本調査の結果とは、その傾向が必ずしも一致しない。一方で、本調査と日本スポーツ協会の調査とは同様の傾向であった。このように考えると、特に男女比については、スポーツ指導者全体に共通する問題であると考えられる。この点については、陸上競技のみならず、スポーツ全体として解決に向けて知恵を出し合う必要がある。

一方で、男女比および年齢比の基本属性において、日本スポーツ協会の調査と本調査とが同様の傾向を

表2 指導経験年数

| 指導経験年数 | | | | | |
|--------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 今回調査 | 10年未満 | | 10年以上20年未満 | 20年以上30年未満 | 30年以上40年未満 |
| 中学校 | 63.1%(1305名) | | 20.6%(426名) | 9.9%(205名) | 6.4%(132名) |
| 高等学校 | 46.5%(819名) | | 20.6%(453名) | 16.8%(296名) | 11.0%(194名) |
| JSPO調査 | 1~5年 | 6~10年 | 11~20年 | 20年以上 | |
| 中学校 | 42.9%(762名) | 26.5%(471名) | 19.5%(346名) | 11.1%(197名) | |
| | 69.4%(1233名) | | | | |
| 高等学校 | 28.3%(517名) | 20.2%(369名) | 25.4%(464名) | 26.0%(475名) | |
| | 48.5%(887名) | | | | |

表3 実質的に指導している生徒数

| 実質的に指導している生徒数 | | | | | | |
|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|------------|
| 今回調査 | 10人以下 | 11人以上20人以下 | 21人以上30人以下 | 31人以上40人以下 | 41人以上50人以下 | 51人以上 |
| 中学校 | 20.0%(413名) | 24.5%(507名) | 21.9%(452名) | 15.7%(325名) | 8.6%(178名) | 9.3%(192名) |
| 高等学校 | 37.6%(662名) | 27.3%(481名) | 16.7%(294名) | 9.8%(172名) | 5.2%(92名) | 3.4%(60名) |

表4 部員数

| 部員数 | | | | | | |
|--------|--------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| JSPO調査 | 回答数 | 5名未満(0名含む) | 5名以上10名未満 | 10名以上20名未満 | 20名以上30名未満 | 30名以上 |
| 中学校 | | | | | | |
| 男子 | 730名 | 5.8%(42名) | 16.8%(123名) | 40.8%(298名) | 24.1%(176名) | 12.5%(91名) |
| 女子 | 673名 | 5.1%(34名) | 19.5%(131名) | 49.3%(332名) | 19.6%(132名) | 6.5%(44名) |
| 男女合同 | 846名 | 4.6%(39名) | 12.9%(109名) | 34.0%(288名) | 21.9%(185名) | 26.5%(224名) |
| 高等学校 | | | | | | |
| 男子 | 897名 | 10.9%(98名) | 15.4%(138名) | 33.6%(301名) | 19.8%(178名) | 20.3%(182名) |
| 女子 | 575名 | 12.2%(70名) | 26.1%(150名) | 41.9%(241名) | 13.0%(75名) | 6.8%(39名) |
| 男女合同 | 1,214名 | 9.2%(112名) | 17.3%(210名) | 29.5%(358名) | 20.8%(253名) | 23.2%(282名) |

表5 部活動指導における役割

| 指導の役割 | | | |
|-------|--------------------------------------|------------------------|-----------------|
| 今回調査 | 実技指導、部または部員の管理、大会引率などすべての役割を担う 教員 | 主に、部または部員の管理や大会引率を担う教員 | 定期的に指導に関わる外部指導員 |
| 中学校 | 88.1%(1822名) | 10.0%(207名) | 1.9%(39名) |
| 高等学校 | 87.2%(1536名) | 12.5%(220名) | 0.3%(5名) |

表6 担当教科

| 担当教科 | | | |
|------|-------------|--------------|--------------|
| 今回調査 | 保健体育科 | 保健体育科以外 | 教員免許を保有していない |
| 中学校 | 44.9%(929名) | 54.0%(1117名) | 1.1%(23名) |
| 高等学校 | 53.5%(942名) | 45.3%(798名) | 1.2%(21名) |

表7 陸上競技の競技経験

| 中学校期・高等学校期・大学期において所属していた部活動 | | |
|-----------------------------|--------------|---------------------|
| 今回調査 | 陸上競技部 | 陸上競技部以外 (文化部を含む) |
| 中学校 | | |
| 中学校期 | 48.1%(995名) | 51.9%(1073名) |
| 高等学校期 | 58.6%(1212名) | 41.4%(856名) |
| 大学期 | 43.9%(908名) | 56.1%(1160名) |
| 高等学校 | | |
| 中学校期 | 57.3%(1009名) | 42.7%(752名) |
| 高等学校期 | 79.2%(1395名) | 20.8%(366名) |
| 大学期 | 65.9%(1160名) | 34.1%(601名) |

| 担当教科と陸上競技経験の有無 (競技経験のありは、中学校・高等学校・大学のいずれかで経験があると回答した方) | | | | |
|---|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 今回調査 | 体育×経験あり | 体育×経験なし | 体育以外×経験あり | 体育以外×経験なし |
| 中学校 | 34.2%(707名) | 11.1%(230名) | 30.6%(633名) | 24.1%(498名) |
| 高等学校 | 57.9%(1020名) | 2.3%(41名) | 31.3%(551名) | 8.4%(148名) |

表8 担当教科と陸上競技の競技経験の有無

| 担当教科と陸上競技経験の有無 (競技経験のありは、中学校・高等学校・大学のいずれかで経験があると回答した方) | | | | |
|---|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 今回調査 | 体育×経験あり | 体育×経験なし | 体育以外×経験あり | 体育以外×経験なし |
| 中学校 | 34.2%(707名) | 11.1%(230名) | 30.6%(633名) | 24.1%(498名) |
| 高等学校 | 57.9%(1020名) | 2.3%(41名) | 31.3%(551名) | 8.4%(148名) |

表9 一週間当たりの指導日数と指導時間

| 一週間当たりの指導日数 | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-------------|--------------|-------------|
| 今回調査 | 1~2日 | 3日 | 4日 | 5日以上 | 毎日 |
| 中学校 | 4.5%(93名) | 3.2%(66名) | 11.7%(242名) | 73.8%(1526名) | 6.7%(139名) |
| 高等学校 | 4.5%(79名) | 3.9%(69名) | 4.7%(83名) | 65.2%(1148名) | 21.6%(380名) |

| 平日の指導時間 | | | | |
|---------|------------|--------------|-------------|-----------|
| 今回調査 | 1時間未満 | 1時間以上2時間未満 | 2時間以上3時間未満 | 3時間以上 |
| 中学校 | 6.8%(140名) | 55.3%(1144名) | 36.5%(755名) | 1.4%(29名) |
| 高等学校 | 6.8%(120名) | 33.6%(592名) | 55.0%(969名) | 5.2%(92名) |

| 休日の指導時間 | | | | |
|---------|------------|------------|--------------|-------------|
| 今回調査 | 1時間未満 | 1時間以上2時間未満 | 2時間以上3時間未満 | 3時間以上 |
| 中学校 | 5.8%(120名) | 8.8%(182名) | 60.7%(1255名) | 24.6%(509名) |
| 高等学校 | 5.5%(97名) | 8.6%(151名) | 54.3%(956名) | 31.6%(556名) |

表 10 指導観

| 指導のやりがいについて | | | | | |
|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|-----------|
| 今回調査 | とても感じる | 感じる | どちらともいえない | 感じない | まったく感じない |
| 中学校 | 37.0%(765名) | 31.8%(658名) | 18.8%(389名) | 7.6%(157名) | 4.8%(99名) |
| 高等学校 | 44.0%(775名) | 28.2%(497名) | 17.1%(301名) | 6.6%(116名) | 4.0%(70名) |

| 指導に対する負担感 | | | | | |
|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|------------|
| 今回調査 | とても感じる | 感じる | どちらともいえない | 感じない | まったく感じない |
| 中学校 | 26.2%(542名) | 28.2%(583名) | 24.5%(507名) | 13.5%(279名) | 7.6%(157名) |
| 高等学校 | 20.6%(363名) | 26.5%(467名) | 29.0%(511名) | 15.0%(264名) | 8.9%(157名) |

表 11 指導者資格の有無と研修会への参加

| 陸上競技に関する指導者資格の有無 | | | |
|------------------|--------------|-----------------------------|-------------------------|
| 今回調査 | なし | JAAF公認ジュニアコーチ (JSPOコーチ1) | JAAF公認コーチ (JSPOコーチ3) |
| 中学校 | 90.6%(1874名) | 5.9%(122名) | 3.5%(72名) |
| 高等学校 | 80.9%(1425名) | 6.5%(114名) | 12.4%(218名) |

| 過去5年間における研修会等の参加について | | |
|----------------------|-------------|--------------|
| 今回調査 | 参加した | 参加していない |
| 中学校 | 38.0%(786名) | 62.0%(1282名) |
| 高等学校 | 44.5%(784名) | 55.5%(977名) |

示したことから、お互いに比較の対象とすることは妥当であると考えられる。そのため、以降では、陸上競技に固有の特徴について考えたい。

本調査において回答が得られた対象者のうち、外部指導者の割合は中学校では2%弱、高等学校では1%を切っている。スポーツ庁が公表した資料によれば、運動部の数に占める外部指導者の割合は、中学校で約25%、高等学校で11%であったと報告されている。スポーツ庁の資料は外部指導者が指導に当たる部活動の割合であり、本調査は指導者に占める外部指導者の割合であることから、両者を単純に比較することはできない。また、本調査の調査方法が、各学校の連絡代表者への依頼であったことから、外部指導者にまで本調査の依頼が行き届かなかったことも考えられる。このことから、本調査の結果が、中学校および高等学校における陸上競技の外部指導者の人数を正確に把握できていない可能性もある。一方で、対象者のほとんどが教員であった本調査において、指導に対する負担感について、「負担に感じる」、「とても感じる」と答えた指導者が全体の50%程度を占めていることを考慮すれば、教員の働き方改革の流れのなかで、部活動の地域移行や外部指導者の活用が進むことは必然的な流れであろう。事実、一週間の指導日数が5日以上と答えた指

導者は80%を超えており、平日の指導時間が2時間以上と答えた指導者が中学校では40%、高等学校では60%弱に上り、休日の指導時間が2時間以上と答えた指導者も中学校、高等学校ともに80%を超えている。これらのことを考えると、指導を「負担に感じる」、「とても感じる」と答えることも理解できる。したがって、陸上競技にとって外部指導者の量、質どもの充実は大きな課題である。

ここまで比較の対象としてきた日本スポーツ協会の調査は、2014年の冬と2021年の冬に行われた。2014年に行われた最初の調査において、体育以外の教科を担当していて、かつ指導を担当している競技経験がないと答えた指導者の数が中学校で約45%、高等学校で約40%であったことが示された。そして、体育以外の教科を担当していて競技経験がない指導者が感じている問題や課題として、自分自身の専門的指導力の不足を挙げており、部活動指導者の置かれている困難な状況が明らかになった。なお、2021年の調査において、体育以外の教科を担当していて、競技経験がないと答えた指導者は中学校、高等学校ともに約25%と激減している。一方、本調査では、体育以外の教科を担当していて陸上競技の競技経験がないと答えた指導者は中学校では約25%と、日本スポーツ協会の2021年の調査結果と

同程度の値であったが、高等学校では10%を切っており日本スポーツ協会の調査結果と比較して明らかに少ない。さらに、体育を担当していて、陸上競技の競技経験があると答えた指導者の割合は、中学校で約35%、高等学校では約60%と、この割合は、日本スポーツ協会の調査と比較して多い。この点については、陸上競技は他の種目と比較して恵まれている。これに対して、本調査におけるJAAF公認ジュニアコーチまたはJAAF公認コーチの資格保有率は、中学校で約10%、高等学校で約20%と日本スポーツ協会の示した割合と同程度の割合であった。体育を担当していて競技経験がある指導者の割合が、他の種目を含めた日本スポーツ協会の調査と比較して明らかに高いにも関わらず、指導者資格の保有率が日本スポーツ協会の調査と同程度であったことを考慮すると、陸上競技の指導者は、体育を担当していて陸上競技の競技経験があれば、指導者資格がなくても適切に指導することができるかと認識していることも伺える。このような認識を脱却し、体育を担当していて陸上競技の競技経験があったとしても、JAAF公認ジュニアコーチまたはJAAF公認コーチ資格の取得を促すために、これらの指導者資格が、体育の教員免許取得に必要な知識とは異なることを知ってもらう必要もあろう。さらに、部活動の地域移行が教員の働き方改革を目的の一つとしていることを考慮すると、資格取得のための講習会や研修会への参加が教員の休日に行われることは、社会の向かおうとする方向と逆行している可能性もある。このことから、講習会や研修会への参加が、教員にとって職務とみなされる活動とする必要もあろう。

検討メンバー

木越清信（筑波大学）、森健一（武蔵大学）、森丘保典（日本大学）、山本浩（法政大学）、磯貝美奈子（日本陸連）、田中悠士郎（日本陸連）

参考資料

「学校教員統計調査 ―平成28年度（確定値）の結果概要―」，文部科学省，2018年

https://warp.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11293659/www.mext.go.jp/component/b_menu/other/___icsFiles/afieldfile/2018/03/28/1395303_03.pdf

「学校教員統計調査 ―令和元年度（確定値）の結果概要―」，文部科学省，2021年

https://www.mext.go.jp/content/20210324-mxt_chousa01-000011646_1.pdf

「令和3年 学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書」，公益財団法人日本スポーツ協会，2021年

「平成26年 学校運動部活動指導者の実態に関する調査報告書」，日本体育協会（現 日本スポーツ協会），2014年

「運動部活動の現状について」運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン作成検討会議（第1回）資料2，スポーツ庁，2017年

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/___icsFiles/afieldfile/2017/08/17/1386194_02.pdf

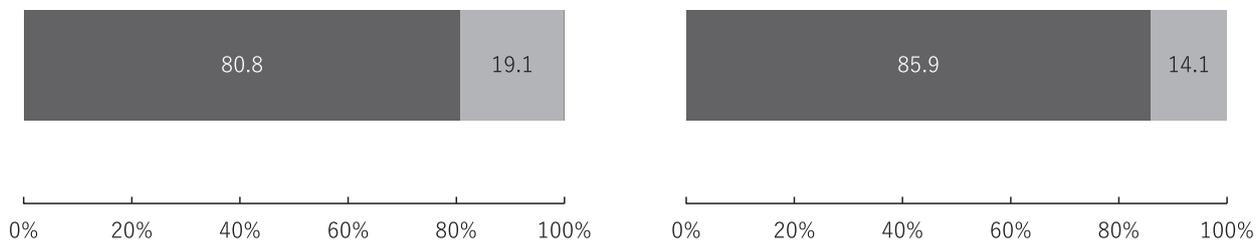
〈資料〉

中学校

高等学校

• 性別

■ 男性 ■ 女性



• 年齢

■ 20歳代 ■ 30歳代 ■ 40歳代 □ 50歳代 ■ 60歳代以上

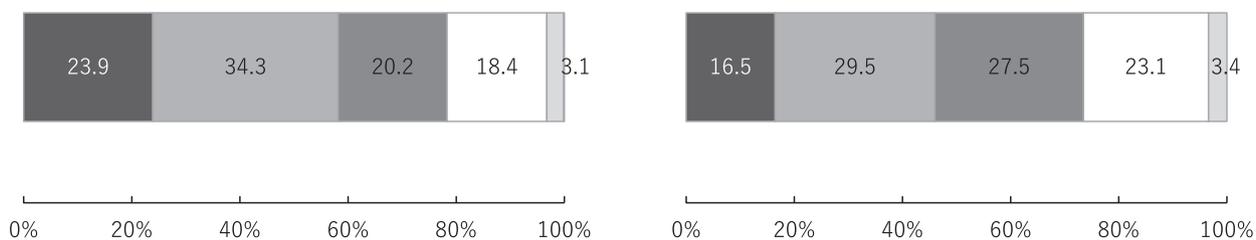


図 1. 対象者の基本属性

中学校

高等学校

■ 10年未満 ■ 10年以上20年未満 ■ 20年以上30年未満 □ 30年以上40年未満

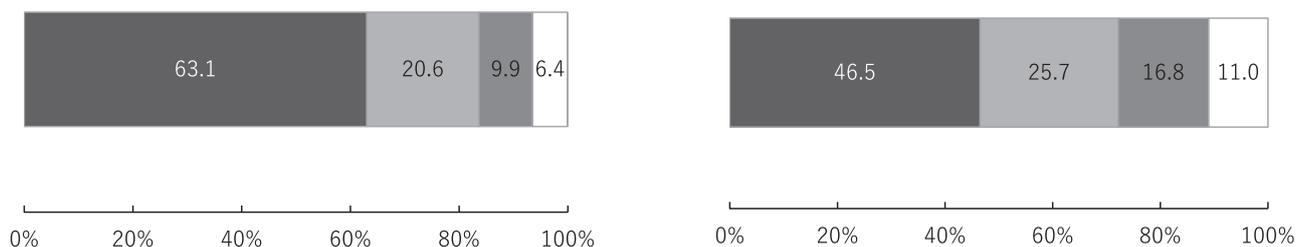


図 2. 指導経験年数

中学校

高等学校

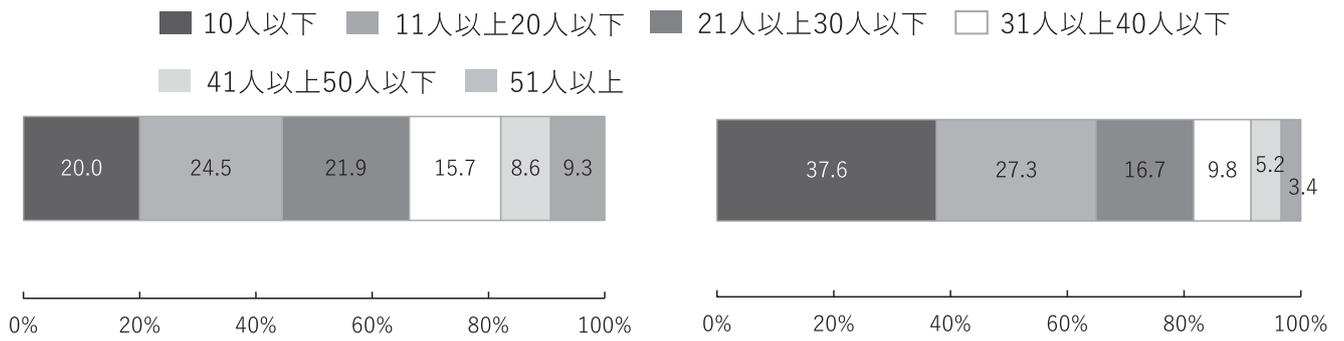


図3. 実質的に指導している生徒数

中学校

高等学校

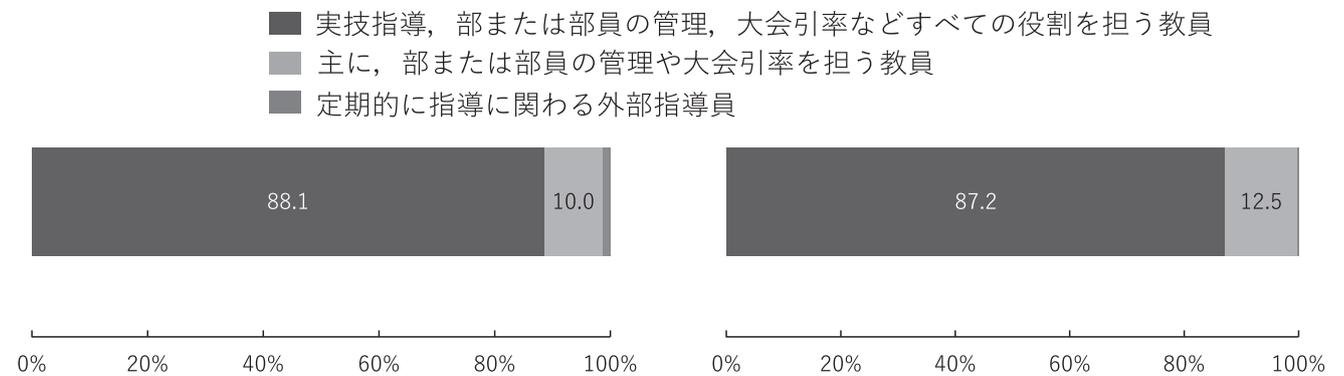


図4. 部活動指導における役割

中学校

高等学校

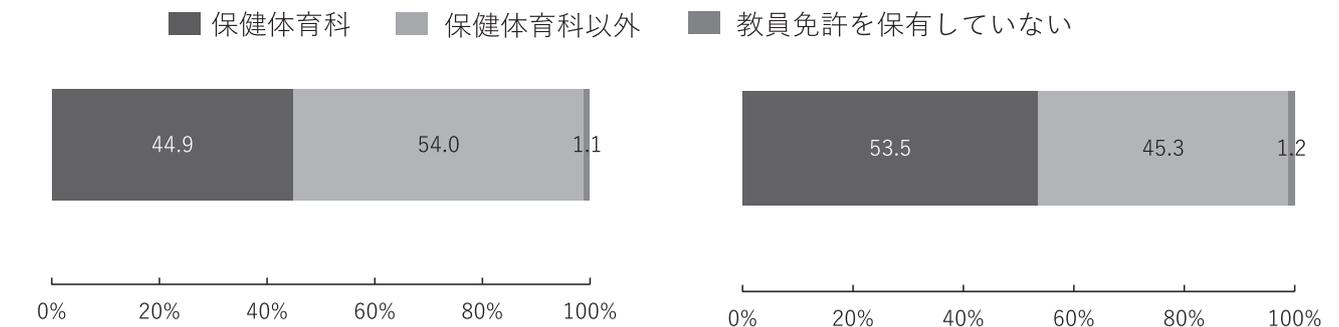


図5. 担当教科

中学校

高等学校

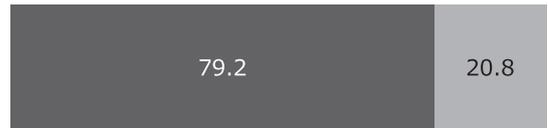
中学校期

■ 陸上競技部

■ 陸上競技部以外（文化部を含む）



高校期



大学期

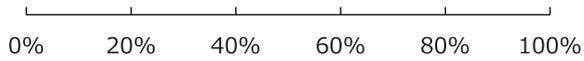


図 6. 陸上競技の競技経験

中学校

高等学校

体育以外×経験なし 体育×経験あり

24.1 34.2

30.6 11.1

体育以外×経験あり 体育×経験なし

体育以外×経験なし

8.4

体育以外×経験あり

31.3

体育×経験あり

57.9

2.3

体育×経験なし

図 7. 担当教科と陸上競技経験の有無

中学校

高等学校

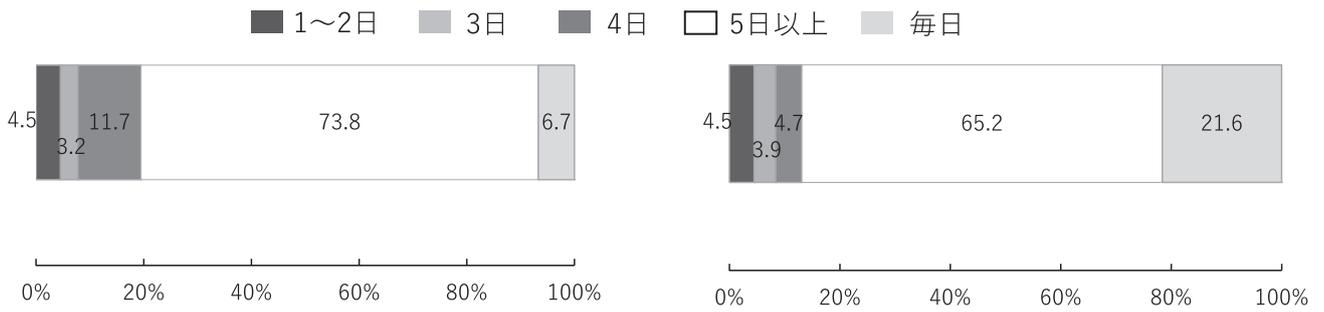
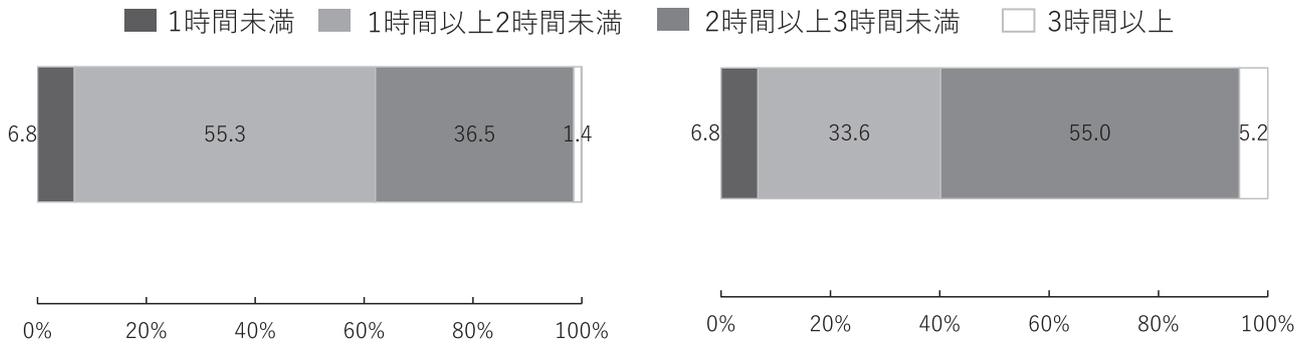


図8. 指導日数

中学校

高等学校

• 平日



• 休日

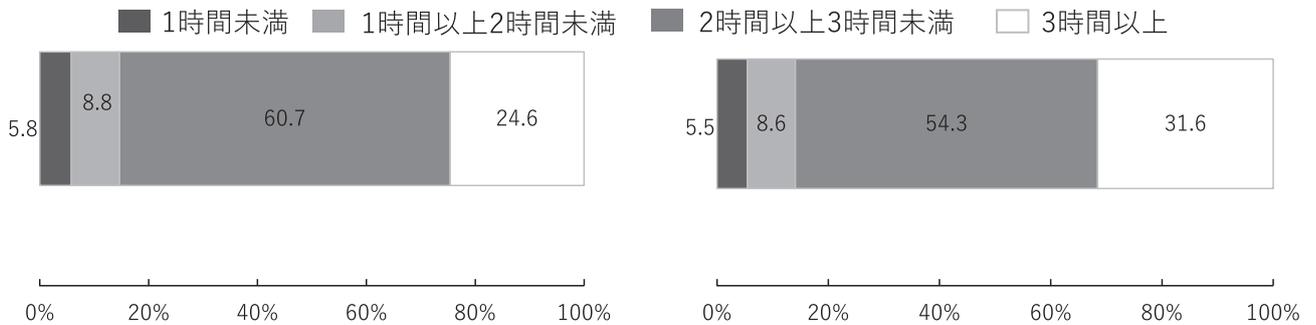


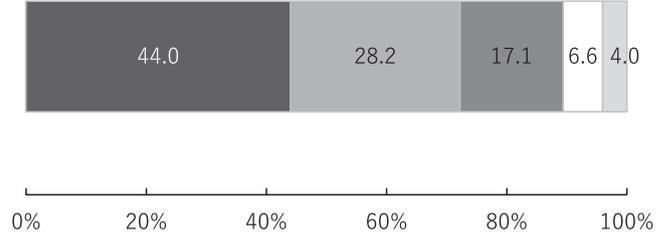
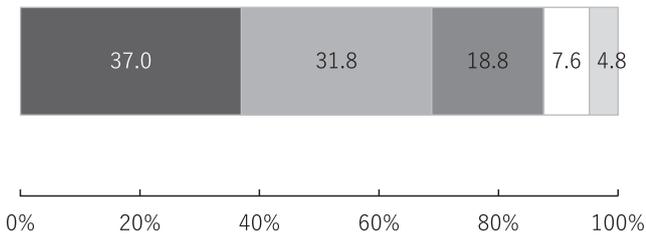
図9. 一週間当たりの指導時間

中学校

高等学校

・ 指導のやりがい

■ とても感じる ■ 感じる ■ どちらともいえない □ 感じない ■ まったく感じない



・ 指導に対する負担感

■ とても感じる ■ 感じる ■ どちらともいえない □ 感じない ■ まったく感じない

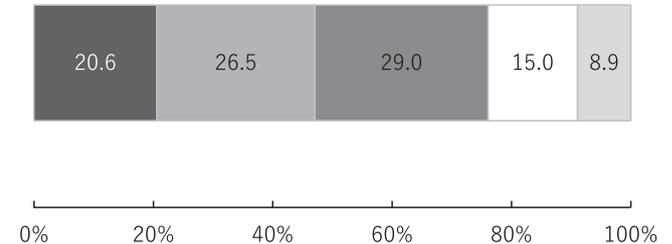
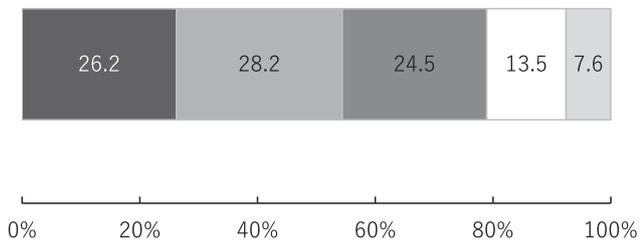


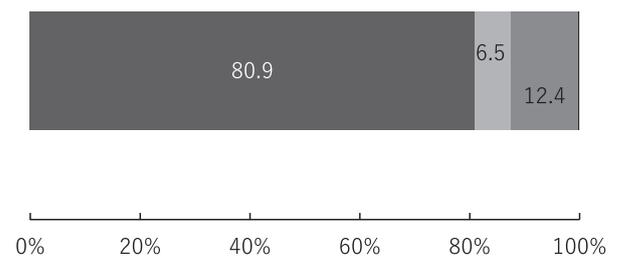
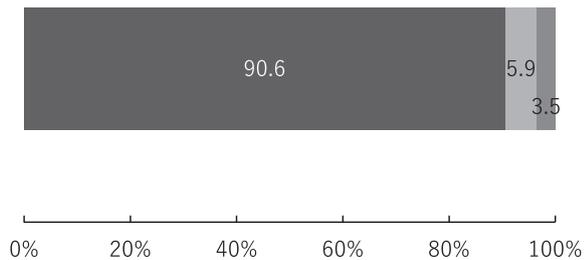
図 10. 指導観

中学校

高等学校

・ 陸上競技に関する指導者資格の有無

■ なし ■ 公認ジュニアコーチ (コーチ1・2) ■ 公認コーチ (コーチ3・4)



・ 過去5年間における研修会等の参加について

■ 参加した ■ 参加していない

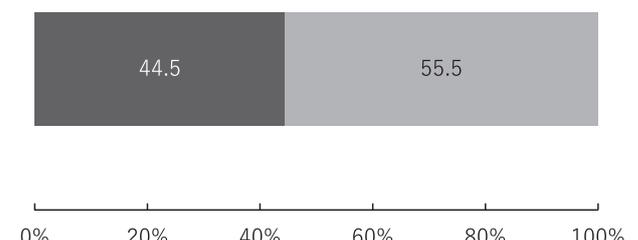
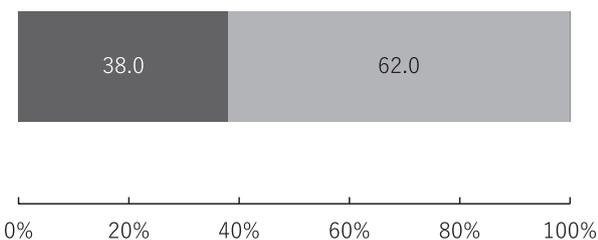


図 11. 指導者資格の有無と研修会への参加